

白方小学校だより

白 方 の 風

【学校教育目標】自ら学び考え、心豊かで
健やかに生きる児童の育成

令和7年度
No.21
東海村立白方
小学校
2025.9.26
児童数 451 人

来週水曜日から10月に入ります。10月には6年生の陸上記録会があります。自分が挑戦する種目を決めて、自己記録更新を目指して、24日から練習に入りました。一人一人が自分の記録挑戦に精一杯力を尽くして欲しいと願っています。その他、各学年の遠足、薬物乱用防止教室（6年生）、おなか元気教室（1年生）しょうゆものしり博士による学習（4年生）、学区探検（2年生）、サッカー教室（5年生）など体験的学習や専門家の方による学習が計画されています。児童が実生活に結びついた学習を行うことで、多様な見方・考え方が培われるよう、安全面に配慮しながら支援して参りたいと存じます。

陸上記録会練習開始

～仲間と共に取り組むよさがあります。～

陸上記録会の練習が24日（水）から始まりました。陸上記録会は自己記録への挑戦が大きな目標です。しかし、学級や学年の仲間と共に練習に取り組む中で、アドバイスを受けて、励まし合ったりすることで、挫けそうな場面でも乗り越えていく力が湧いてきます。仲間と共に活動して、苦しさや辛さを乗り越えた経験は強い絆の礎になっていきます。

さらに、仲間から自分の競技する姿を客観的に見てもらうことで、より速く走る、より高く長く跳ぶ、より遠くへ投げるために、体の動きのどの部分を改善したら良いのかについてアドバイスを受け改善していくこともできます。本番へ向けて安全面に配慮しながら、力を伸していけるよう支援して参ります。



盲導犬について

～盲導犬ユーザーの方のお話を聞きました。～
9月17日（水）に4年生が盲導犬ユーザーの方からお話をうかがいました。

盲導犬は身体障害者補助犬の中の一つの犬種で、視覚に障害がある方を助ける犬です。身体障害者補助犬には、盲導犬の他に手足に障害がある方を助ける介助犬、聴覚に障害がある方を助ける聴導犬がいます。

この日は盲導犬を実際に使用されている方から、盲導犬の役割にはどういったことがあるのか、盲導犬にはどういった種類の犬がよく選ばれているのか、盲導犬はどうやって育てられるのか、盲導犬を連れて歩いている方がいたらどうしたらいいのか、といったことについてお話をうかがいました。

盲導犬には、「障害物を避ける・道の端を歩く・段差を教える・曲がり角を教える・指示されたことをする」といった役割があるそうです。日本では、犬の気性の特徴などからゴールデン・レトリバー、ラブラドル・レトリバーが多く盲導犬として活躍しているとのことでした。

盲導犬を育てる初期段階は、盲導犬に向いている親から生まれた子犬を選び、バビーウォーカーと呼ばれるボランティアによって育てられながら社会性や、実社会や家庭の中で暮らすためのルールを学ばせることから始まります。その後、基本訓練・誘導訓練、評価試験を受けて最後に視覚に障害がある方と共に生活しながら共同訓練をした上で盲導犬として活躍していくそうです。およそ、生後10年になると盲導犬を引退することが多いとのことでした。盲導犬を連れて歩いている方が歩いていた場合は、犬の名前を知っていても名前は呼ばずに「こんにちは」と声をかけて欲しいとのことでした。名前を呼ばれると犬の気が散れてしまうのだそうです。

視覚障害の方が周りの様子を知ったり、文書を読んだりするために、スマートフォンのアプリを活用しているとのことのお話もうかがいました。例えば、お札のお金を識別する際に、スマートフォンで写真をとると「千円札が手のひらの上にあります。」と音声で知らせてくれるといった機能があることも教えていただきました。盲導犬ユーザーの方から盲導犬のこと、視覚に障害がある方の生活の様子をうかがい、今後盲導犬を連れて歩いている方に出会った際に、どういった対応をすればよいか、理解することができました。ありがとうございました。

